

サカキ・シキミの栽培技術向上に関する研究

(シキミ・サカキの病虫害防除マニュアルの作成と被害情報の整理)

森林経営課：藤本浩平・黒岩宣仁

■ 目的

サカキやシキミは、安定した需要が望める特用林産物であるが、近年、生産者の高齢化により全国的に生産量が減少している。市場でのサカキ・シキミの需要量は大きく、林業経営者にとって安定した副収入源につながる可能性がある。

本県の環境条件にあった栽培技術の開発に早急に取り組むため、人工林内を利用したサカキの成長把握や、新たに発生した病虫害の予防方法の検討を行い、科学的知見に基づいた栽培技術の普及を通じて産業振興を図ることを目的とした。

本年度は病虫害防除マニュアルを作成するとともに病虫害データの整理を行い、対応を要する病虫害を把握した。

■ 内容

既存の病虫害研究の知見を元に、病虫害防除マニュアルを作成し、配布時に病虫害の有無について生産者を対象にアンケートを行った。また、県内の生産者からの相談内容について整理して、被害の多い病虫害の傾向を検討した。

■ 成果

アンケートは16件の回答が得られた。また、H21～R3年度の13年間のサカキ・シキミの病虫害に関する技術相談等の件数は549件で、病虫害246件、薬剤44件で防除に関する内容が半数を占めた

1) シキミの病虫害

アンケートを整理した結果、シキミグンバイによる被害(写真1)が最も多くみられた(図1)。相談件数でもシキミグンバイによる被害が最も多く(図3)、生産者にとって防除の必要性が最も高い害虫であることが分かった。同様に、黒しみ斑点病やコミカンアブラムシも防除の課題となる病虫害である。一方、シキミタマバエやハマキガはアンケートの結果では目撃事例が多いものの相談対象となることが少なかった。被害があっても深刻でないか、生産者で対処ができていないのではないかと考えられた。

2) サカキの病虫害

アンケートの目撃件数、相談件数とも、最も多かったのはすす病(カイガラムシ類等)(写真2,3)であった(図2,4)。同様に輪紋葉枯病やサカキブチヒメヨコバイも防除の課題となる病虫害であることがわかった。一方、ハモグリガ・ハモグリバエやミノガ類はアンケートの結果では目撃事例が多いものの相談対象となることが少なかった。比較的わかりやすい害虫であり、生産者で対処ができていないのではないかと考えられた。

以上の結果を用い、病虫害研究の推進、防除マニュアルの改訂に活かしていく。

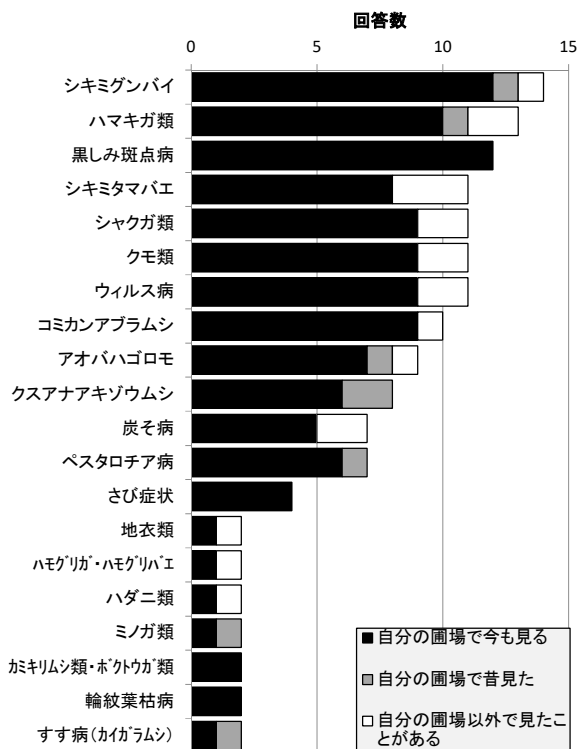


図1 アンケートによるシキミ病虫害の目撃件数

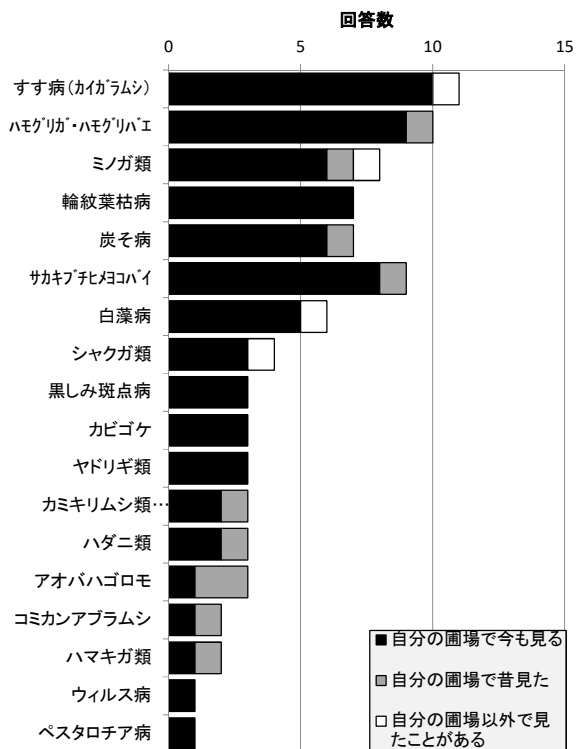


図2 アンケートによるサカキ病虫害の目撃件数

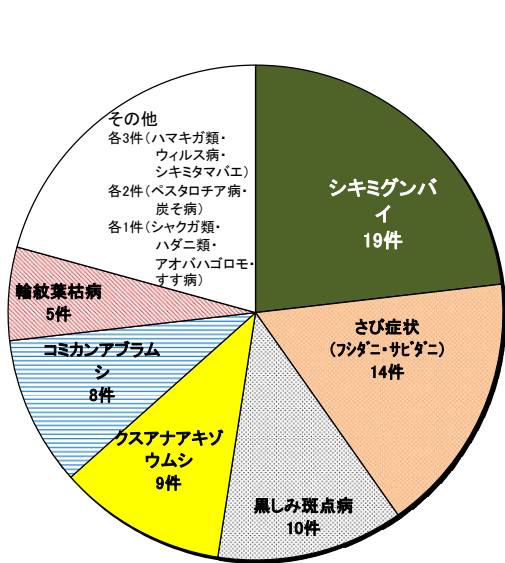


図3 シキミ病虫害別技術相談等の対応件数

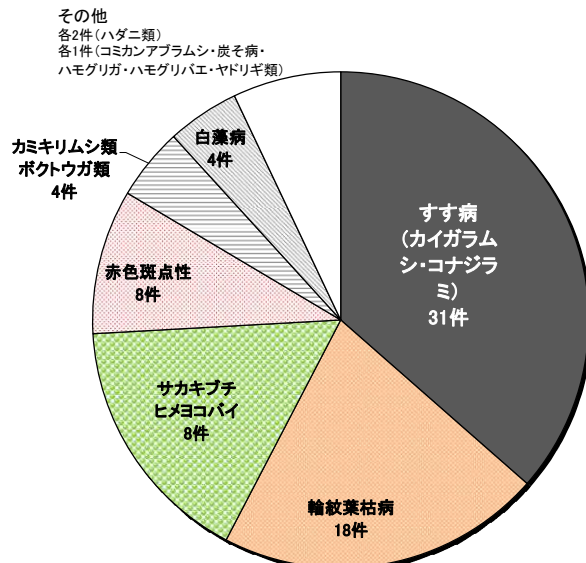


図4 サカキ病虫害別技術相談等の対応件数



写真1 シキミグンバイムシ被害葉



写真2 サカキのすす病被害葉



写真3 ルビーロウムシ